

1. 単元・教材名 『3. 心をひらく』 「新聞少年の歌」

2. 教材について

(1)話題・題材

現代の若者の成長を考えたとき、文学的文章を読むことに大きな意義がある。なぜなら、それは、登場人物のおかれた状況や心情を考えていくことを通して、想像力を高め、人間理解を深め、ひいては、自分自身を見つめ直すきっかけとなるからである。この教材で登場人物の心情を読みとるためには、人と人との出会いや、行き方に影響を与えた人物について描いた作品を読むことは、自分の身の周りを見つめる良い機会になると考えている。

(2)生徒につけさせたい力

この作品を通して、小説を読み込んでいく面白さを味わわせるために、登場人物の心情をとらえる読みを大切にしたい。そのために、「新聞少年の歌」という題名について関心を持たせ、考えさせることが必要である。そのことによって、表現に基づいて読んでいくことの重要性を理解させたい。そして心情読みの基礎・基本の力を身につけることにつなげたい。また、この作品の題材でもある人と人との出会いや、生き方に影響を与えた人物との話から、自分自身の身のまわりを見つめる力をつける良い機会としたい。

(3)力をつけさせるための方法

登場人物の心情をとらえるためには

- ①直接的な表現 ・ ②会話の部分から ・ ③行動の描写から ・ ④情景の描写から

を意識させることが必要である。そのために、「新聞配達少年」の行動や発言に対し「ぼく」の心情をとらえる部分などを抜き出すスモールステップから、登場人物の心情に迫る作業をワークシートを有効に活用し、じっくりと考えさせながら取り組ませることによって、心情読みの基礎・基本の力をつけさせたい。それと同時に生徒自身に置き換えて考えられるように、題名についての生徒の考えをまとめる作業を行うことが有効であると考えている。

3. 生徒の実態

文学的文章を読むことについて、1学期に「オツベルと象」で、人物像や人物相互の関係をとらえる力、擬声語・擬態語や比喩表現のおもしろさと、「第一日曜」「第二日曜」「第五日曜」という時間の経過や語り手が話を進める構成のおもしろさをとらえてきた。この教材では、登場人物の心情や人物像をとらえる力を育てていきたい。また、そこから生徒自身が心の成長を支えるような読書活動ができるようにしていきたい。現在の生徒たちの読みの力は、本文中から該当箇所を抜き出す程度はできている。しかし、それを活かし登場人物の心情理解につなげることを苦手としている生徒がいる。本文中の表現や描写から登場人物の心情に迫り、豊かな読みの活動をひろげるために、この作品を通じて心情読みの基礎・基本を習得させたい。そのために、心情に迫る本文中の部分抜き出すスモールステップを行うことによって自信を持たせ、そこから登場人物の心情に迫ることで確かな力としていきたい。そして、次の文学的文章「少年の日の思い出」では、主題をとらえるために情景や心情を叙述どおりに読みとることや、登場人物の人物像を読み取り、最後の場面の主人公の行為の意味を、主題と関連付けて説明できるよ

4. 研究の視点との関わり

①基礎・基本を明確に位置付け、効果的な指導を進めるための指導計画の工夫

教材の最初の時間になぜ「新聞少年の歌」という題名かを考えさせ、その由来がわかるには登場人物の心情とその変化を読み取る必要がある事をとらえさせる。その後の場面ごとにおける登場人物の心情とその変化を読み取ることで、常に題名について振り返ることによって生徒が関心を持ち学習が進められる。

登場人物の人物像や心情およびその変化を読み取るために、本文中よりその材料となる部分を抜き出す力とそれを用いてまとめ、整理していく力が大切である。本教材では直接的な表現が多いことから、人物像や心情およびその変化を読み取るための材料集めが容易にでき、それをまとめ整理することも容易にできる。この読解の基礎・基本を指導計画の中に段階的に取り入れることによって、後の様々な表現から人物像や心情およびその変化を読み取る力の土台となると考える。

## ②基礎・基本を重視し、意欲的な学びを促す問題解決の場面設定や指導方法の工夫

ワークシートを用い、主人公の心情の変化を読み取るために、材料集めのための4つの意識をいつも持たせながら、解決に迫る場面を中心に行う。また、「新聞少年の歌」という題名の由来について関心を持たせ、常にその課題解決を意識させる。そこから登場人物の心情の読み取りに必要感を感じ、意欲的な活動につなげていきたい。場面ごとと題名について考えていくワークシートを取り組み、それを授業の中に活かし、提出させて生徒の理解度ををはかることによって、個への理解の補充に努めることができる。

## ③一人ひとりの学びを共感的にとらえ、観点や場面・方法を明らかにした指導改善に生かす評価の工夫

この作品では心情理解のための4つの観点を常に意識させることを体得させるために、場面ごとと題名について考えていくワークシートに個々が記入し、その内容を全体で発表させたり、席の隣近所の生徒同士で意見交流させることで、お互いの学びを深化させることができる。また、そのワークシートを授業の中に活かし、提出させ生徒の理解度ををはかることによって、次の指導事項や個々の実態を把握する事ができ、個への補充や発展を促すことができる。

## 5. 教材の目標

- (1)人物相互の関係をとらえ、心の成長について考える。
- (2)作品の展開をとらえ、えがかれている人物や状況を理解する。
- (3)作品の題名について、作品を読みとることによって自分なりの考えを持つことができる。

## 6. 教材の評価規準

国語への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自身のこれまでの出会いなどを振り返り、自分自身のこれからの生活に活かそうと考えている。</li> <li>・作品に登場する人物像にふれ、心の成長について考えようとしている。</li> </ul>
話す・聞く能力	
書く能力	
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>※「新聞少年の歌」という題名について考えるために</li> <li>・作品の展開をとらえ、描かれた状況や人物像をとらえている。</li> <li>・他の登場人物との関わりを通して、主人公の心情の変化を読み取っている。</li> </ul>
言語についての知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品を読み、事象や行為などを表す語句について理解を深めている。</li> <li>・作品中の既習漢字と新出漢字を適切に読み書きしている。</li> </ul>

## 7. 指導計画および評価計画（8時間）

時数	◇ねらい・主な学習の流れ	評価規準【評価方法】
1	(1)作者について知ろう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-right: 10px;">芥川賞作家</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-right: 10px;">ミュージシャン、作詞・作曲</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-right: 10px;">ドラマの脚本家「愛をください</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-right: 10px;">北海道(帯広・函館)に住んでいた。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-right: 10px;">「新聞少年の歌」という題名から、どんな話が想像してみよう。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">資料集を活用したり、不足分を教師が補ったりする。</div>

(2)「新聞少年の歌」という題名から、どんな話か想像し発表しよう。

新聞少年が歌を歌う？

新聞少年を讃える歌があ

「新聞少年の歌」が何かを起こす？

(3)作品を音読しよう。

「歌」ってあるけど、歌ってるところがないよ！？

どこかが「新聞少年の歌」の歌詞になっているのかな？

「歌」という題名は変だな？



### なぜ「新聞少年の歌」という題名か考えよう。

「新聞配達の少年」の人物像を考えてみよう。

「新聞配達の少年」に対する「ぼく」の気持ちを考えてみよう。

題名について興味を持ち、自分なりの考えを持っている。

(関)【観察 ワークシート】

作品中の難解語句について理解を深め、漢字の読み書きを適切に行い、音読している。

(言)【観察】

生徒に音読させ、既習漢字や新出漢字の確認をし、難解語句についても教師から補足を入れる。

次の時間の意欲につながるように、次時よりの課題設定をしていく。

2

### 主な登場人物と話の展開についてとらえよ

(1)主な登場人物は？

「ぼく」(主人公)=作者

「新聞少年」=「新聞配達の少年」

(2)全体を6つの場面に分けよう。

- ・小学校のころ
- ・中学校のころ (P110, 2行目～)
- ・高校のころ (P110, 5行目～)

3つは簡単に分けられるんだなあ…。

- ・小学校の中学年のころ (P101, 1行目～)
- ・それから少しして (P104, 2行目～)
- ・それから数日して (P106, 4行目～)
- ・しかし、結論からいえば、 (P108, 14行目～)

(3)この作品の話の展開を確認してみよう。

小学生・中学生・高校生の「ぼく」が登場する。

それぞれの時代の「ぼく」が話を進めている？

「～た」と過去形の話の進め方だぞ！？

文脈を正確にとらえ、6つの場面に分けている。

(読)【観察 ワークシート】

まずは小学校・中学校・高校のころの3つに分けさせ、さらに小学校のころの場面を、時間の経過とできごとによって4つの場面に分けさせ

話の展開について、本文に注目し、とらえている。

(読)【観察 ワークシート】

本文に注目させながら、確認させる。

### 大人になった「ぼく」が小学校から高校のころを思い出して語っている話

3

「ぼく」の「新聞配達の少年」に対する心情と「新聞配達の少年」人物像を読み取ろう。

場面1…「ぼく」と子分たちが「新聞配達の少年」に石を投げつける。

(1)どうして投げつけたのか？

子分たちの前だから格好つけた？

いいことをしているのに、それに対するいじわる？

ひねくれてるんじゃないの？

本当は興味津々なのに、わざと逆のことをしている。

「ぼく」の「新聞配達の少年」に対する心情について考えようとしている。

(関)【観察 ワークシート】

- (2)本文中からわかる部分を抜き出そう。
- ・新聞配達の少年の存在は知っていたのだが、こうやってまじまじと見るのは初めてのことだった。(P102, 2行目～)
  - ・ぼくはその姿に何か心を動かされていた。(P102, 7行目～)
  - ・つい心にもない行動をとってしまう。(P102, 9行目～)
- (3)「新聞配達の少年」の態度や様子を、本文中より抜き出そう。
- ・にげようとしなかった(P103, 1行目～)
  - ・鋭い目をした強そうな男(P103, 6行目～)
  - ・じっとぼくらを見すえる(P103, 9行目～)
  - ・かつて見たことのない動物的なもの(P103, 9行目～)

「ぼく」たちに反感を持っている。

強い意志を持っている。

- (4)「ぼく」は「新聞配達の少年」をどう思っていたか？
- ・新聞配達という行為が・・・知っていたはずだ。(P103, 11～13行目)
- ↓
- ・彼の存在が気になっていたからなのだろう。(P103, 14行目)
  - ・ぼくはすごく興味があった(P104, 1行目)

心情に迫る4つの観点  
①直接的な表現  
②会話の部分から  
③行動の描写から  
④情景の描写から  
を意識させる。

「新聞配達の少年」に石を投げつけた「ぼく」の心情や「新聞配達の少年」の人物像を本文中の言葉を抜き出し、その理由についてとらえている。

(読)【観察 ワークシート】

単語レベルでも考えさせてみる。

「新聞配達の少年」を気になっているが、自分たちの手前、石を投げてしまう。しかし、逃げずに鋭い目で見すえるような彼の行動からもさらに興味を持った。

- 4 場面2・・・石が少年に当たり、初めて抗議される。
- (1)抗議された「ぼく」はどのような気持ちになった？
- 「ああ、家は貧乏やけん、長男のおれが働いてお金ば稼がんとならんとよ。お前らみたいに遊んでいるわけにはいかんちゃ。」
- ↓
- ・彼のその言葉はぼくの胸にびんびんと響いた。(P105,9行目)
  - ・貧乏と言いつける彼が自分たちとは違う大人に見えた。(P105,9～10行目)
  - ・いいようのないショック (P106,1行目)
- ↓
- なぜ？

「ぼく」自身が子どもでちっぽけな存在に見えた。

彼を大人に感じ、「ぼく」の幼さを感じさせられた。

- (2)「新聞配達の少年」の人物像は？

親孝行な人

大人っぽい人

- (3)「ぼく」の「新聞配達の少年」に対する心情の変化を読み取ろう。
- ・実は心のどこかで尊敬していた。(P106,3行目)
  - ・自分を彼に投影し始めていた。(P106,3行目)

「ぼく」の「新聞配達の少年」に対する心情について考えようとしている。

(関)【観察 ワークシート】

心情に迫る4つの観点  
①直接的な表現  
②会話の部分から  
③行動の描写から  
④情景の描写から  
を意識させる。

「新聞配達の少年」に対する「ぼく」の心情や「新聞配達の少年」の人物像を、本文中の言葉をたよりにとらえている。

(読)【観察 ワークシート】

単語レベルでも考えさせてみる。

すごく興味があった「新聞配達の少年」と初めて実際に話してみると、彼の言葉に対してびんびんと響き、大人に見え、尊敬するようになり、「ぼく」自身が彼に投影し(あこがれ)始めた。

<p>5 場面3…「新聞配達の少年」に新聞配達をさせてくれるように頼む。 (1)その時の「ぼく」と「新聞配達の少年」はどんな気持ちだっただろう？</p> <p><b>彼はそれを聞いて顔がほころび、「ぼく」の真剣な顔を見て、「いいかげんな気持ちでやるとやったら、おれがゆるさんけんね。」といわれ、「ぼく」は初めてほほえんだ。</b></p> <p>「新聞配達の少年」は「ぼく」が真剣に新聞配達がやりたいといってくれたので、うれしかった！？</p> <p>「ぼく」は「新聞配達の少年」が新聞配達ができるように話を付けてくれるので、うれしかった！？</p> <p><b>「ぼく」と「新聞配達の少年」の心が通い合ったので、うれしかった。</b></p> <p>(2)「新聞配達の少年」の人物像は？ ・「それでも途中で投げ出さず続ける自信があるっちゅうなら、話を付けてやってもよかたい。」 (P107,10行目) ・「いいかげんな気持ちでやるとやったら、おれがゆるさんけんね。」 (P107,13行目)</p> <p>責任感のある人      何事もいいかげんではいけないと考える人</p> <p>(3)新聞の集配所に行った「ぼく」はどうだった？ ・初めての経験でぼくはすっかり緊張していた (P108,4行目) ・ボスにひと言、がんばるんだよと言われ、その言葉が「ぼく」を今までの中でずっと大人として扱ってくれるものだった (P108,8～10行目)</p> <p><b>「ぼく」は自分を大人として扱ってくれることがうれしかったんだな。</b></p> <p><b>「新聞配達の少年」と互いにわかりあえてうれしい気持ちと、興味があった新聞配達ができるといううれしい気持ちがあり、集配所では初めて「ぼく」を大人として扱ってくれたという喜びもあった。</b></p> <p>場面4…父親の反対でできなくなり、少年を避けて遊ぶようになる。 (1)どうして父親は反対したのだろうか？</p> <p>小学生に新聞配達をさせるほど、生活が苦しくないから？</p> <p>そんなに苦しい思いをさせているか。貧しい思いをさせているかとくやしい気持ち？</p> <p>小学生を働かせると、同じ社宅の人たちになんと思われるかわからないから。対面を気にした。</p> <p>(2)どうして「ぼく」は「新聞配達の少年」を避けるようになったのだろうか？</p> <p>せっかく紹介してくれたのに申し訳なかった。      やっぱりいいかげんな奴だと思われていると思ったんじゃない。</p>	<p>「ぼく」の「新聞配達の少年」に対する心情について考えようとしている。 (関)【観察 ワークシート】</p> <p>「ぼく」と「新聞配達の少年」の心情について、互いの関わりからとらえている。 (読)【観察 ワークシート】</p> <p>「新聞配達の少年」の人物像を、本文中の言葉を頼りにとらえている。 (読)【観察 ワークシート】</p> <p>「ぼく」の心情について、登場人物との関わりからとらえている。 (読)【観察 ワークシート】</p> <p>心情に迫る4つの観点 ①直接的な表現 ②会話の部分から ③行動の描写から ④情景の描写からを意識させる。</p> <p>「ぼく」の心情について、登場人物との関わりからとらえている。 (読)【観察 ワークシート】</p>	
<p>6 場面5…中学校のころ (1)「ぼく」の新聞配達に対する思いはどうだった？</p> <p><b>新聞配達に興味を持ち続ける。</b></p>		<p>「ぼく」の「新聞配達の少年」に対する心情について考えようとしている。 (関)【観察 ワークシート】</p>

場面6…高校のころ

(1)柔道部の先輩の家(新聞の集配所)でアルバイトが出来ることになったときの「ぼく」の気持ちは？

念願の新聞配達をやれるということもあって、二つ返事で引き受けた

高校生になっても、まだ興味を持ち続けていたんだな。

うれしかっただろうな。

「新聞配達の少年」に対する「ぼく」の心情を、本文中の言葉をたよりにとらえている。

(読)【観察 ワークシート】

「ぼく」の頭の中で、福岡のあの新聞少年の言った言葉がよみがえっていた。

「いいかげんな気持ちでやるとやったら、おれがゆるさんけんね。」

小学生のときのことが、強烈な印象で残っているんだ。

小学校のときはできなかったけど、高校でそのときと同じ気持ちでやっている。

心情に迫る4つの観点

- ①直接的な表現
- ②会話の部分から
- ③行動の描写から
- ④情景の描写から意識させる。

(2)「新聞配達の少年」は「ぼく」にとってどんな存在だったと、大人になった「ぼく」は考えているか。

今でも消えることなく反響している

尊敬し、あこがれの存在。

「ぼく」を大人にしてくれた存在。

「ぼく」の目標

「ぼく」自身の成長にかけがえのない存在。

今までの「ぼく」の「新聞配達の少年」に対する心情と、本文の言葉をもとに、彼の存在について大人になった「ぼく」がどう考えているかをとらえている。

(読)【観察 ワークシート】

7  
本時

なぜ「新聞少年の歌」という題名か考えよう。

(1)どうして「歌」なのか、自分の考えをわかりやすく書く。

① **「いいかげんな気持ちでやるとやったら、おれがゆるさんけんね。」**

「そしてこの言葉は今でもぼくの心の中で消えることなく反響している。」って歌をさしているような…。

作品の題名について、「ぼく」の心情に対する読みなどを通じて、自分の考えを持っているか。

(読)【観察 ワークシート】

「ぼく」は高校生になっても、福岡の新聞配達の少年の言葉がよみがえっていたな…。

② **この話全体。**

「ぼく」の成長にかけがえのない存在となった、小学生で出会った「新聞配達の少年」との思い出と、中学生、高校生になってもそれが残っていたから…。

(2)自分の考えを発表する。

同じ考えだな。

同じ考えだけど、微妙に違う考えだ。

違う考えだな。

なるほど、そういう考えもあるのか。

他の人の意見を聞くことによって、自分の考えを深めさせる。

(3) どうして「歌」という題名か？(まとめ)

「ぼく」が大人になっても忘れることができない「新聞配達の少年」から言われた言葉「いいかげんな気持ちでやるとやったら、おれがゆるさんけんね。」が、今でも心の中で消えることなく反響していることを『歌』という題名で表した。

「ぼく」が小学生のときに出会った「新聞配達の少年」とのできごとが、中学生、高校生になっても忘れることなく心に残り、大人になった今でも忘れることができないから、そのできごと自体を『歌』という言葉で表した。

8

自分に影響を与えるような人との出会いについて振り返ってみよう

(1) 「ぼく」にとっての「新聞配達の少年」について

尊敬し、あこがれの存在。

「ぼく」の目標

「ぼく」を大人にしてくれた存在。

「ぼく」自身の成長にかけがえのない存在。

(2) 教師自身の体験談を話す。

ぼくにもそんな人がいるなあ。

こんなことを振り返ればいいのか。

(3) ワークシートに書いてみよう。

野球を始めたきっかけの人。

将来の夢を与えてくれた人。

こんな人に会ってみたいな。

国語を好きにしてくれた人。

(4) 発表しよう。

そんな人に会いたいな……。

そんなことがあったんだ……。

自分自身の中で今までを振り返り、自分に影響を与えた人物について考えている。

(関) 【観察 ワークシート】

他の人の意見を聞くことによって、自分の考えを深めさせる。

### 8. 本時の学習 (7/8時間)

#### (1) 本時の目標

どうして「新聞配達の少年」という題名なのかについて、自分の考えを持っている。

#### (2) 本時の展開

生徒の活動・思考の流れ

教師の支援・評価規準

どうして「新聞少年の歌」という題名か考えよう。

○「歌」は本文中に出てきた？

「新聞配達の少年」は歌ってなかった。

歌なんてないよ！

「新聞配達の少年」を励ます歌もなかった。



だから、どうして「歌」という題名か、考えるために「ぼく」の心情や「新聞配達の少年」の人物像などを読みとってきた。

最初の時間に自分たちが考えたことを想起させる。

1～6時間までのワークシートを用意させ、確認する。

○どうして「歌」なのか、自分の考えをわかりやすく書こう。

① **いいかげんな気持ちでやるとやったら、おれがゆるさんけん**

「そしてこの言葉は今でもぼくの心の中で消えることなく反響している。」って歌をさしているような…。

「ぼく」は高校生になっても、福岡の新聞配達の少年の言葉がよみがえっていたな…。

② **この話全体。**

「ぼく」の成長にかけがえのない存在となった、小学生で出会った「新聞配達の少年」との思い出と、中学生、高校生になってもそれが残っていたから…。

③ **なんでだろう???**

☆「歌」ってどんなもの？

歌うもの。

聞くと元気になる。

魂の叫び。

好きな歌って、いつまでも憶えているよな。

○自分の考えを発表しよう。

同じ考えだな。

同じ考えだけど、微妙に違う考えだ。

違う考えだな。

なるほど、そういう考えもあるのか。

○どうして「歌」という題名か。ワークシートに記入しよう。(まとめ)

「ぼく」が大人になっても忘れることができない「新聞配達の少年」から言われた言葉「いいかげんな気持ちでやるとやったら、おれがゆるさんけんね。」が、今でも心の中で消えることなく反響していることを『歌』という題名で表した。

「ぼく」が小学生のときに会った「新聞配達の少年」とのできごとが、中学生、高校生になっても忘れることなく心に残り、大人になった今でも忘れることができないから、そのできごと自体を『歌』という言葉で表した。

※次時の予告

「ぼく」にとって「新聞配達の少年」は、人生に影響を与えた人物だった。その出会いは人を変えることができる。そのような人であった事があったか？

↓  
自分に影響を与えるような人との出会いについて振り返ってみよ

作品の題名について、「ぼく」の心情に対する読みなどを通じて、自分の考えを持っていくか。

(読)【観察 ワークシート】

座席用を活用し、自分の考えを持ってない生徒への支援を積極的に行う。

1～6時間までのワークシートを活用させ、自分の考えを導き出す。

「歌」という言葉に注目させ、そこから今まで学習した事を思い出させる。

他の人の意見を聞くことによって、自分の考えを深めさせる。

同じ意見でも、その理由などの違いにも注目させ、深めさせる。

この教材で学んだことを活かし、生徒自身が自分に置き換えて振り返りできるようにする。